

たすきをつなぐために 選手たちが一致団結

9月23日には、市内一円を巡る14区間、全長35.2kmをコースとした市内駅伝競走大会が行われました。この大会は、祝勝山市制として昭和30年4月30日に行われた支所訪問リレーが前身となり、昭和41年から現在の駅伝となったものです。市内9地区に加え、チャマゴン楽走会（会長：荒井由泰さん）がオープン参加して健脚を競い合った同大会は、少し気温が高めながらも雲が広がり、走るにはますますの気象条件でした。各地区の団旗に囲まれて、野向町の山澤光雄さんによる元気な選手宣誓が行われた後、午前11時に市役所前をスタートしました。選手の皆さんは、受け取ったたすきをつなごうと、懸命に歯をくいしばりながら走り、沿道からは、そんな選手を励ますように拍手や声援が飛び交っていました。大会は、6連覇を狙う荒土地区を勝山地区がじりじりと追い上げ、最終区で捉えて逆転優勝を果たす熱戦となりました。



元気な選手宣誓で身も心も引き締める選手団の皆さん

交通安全を訴え

9月27日、荒土町布市にあるロードパーキング恐竜街道で、勝山市補導委員会（会長：木下道夫さん）理事15人と勝山北部中学校の生徒ら38人による交通安全茶屋が行われました。秋の交通安全県民運動にあわせて市補導委員会が毎年開いている街頭活動で、「夕暮れは早めのライントで事故防止」と書かれたのぼりを持って、交通事故防止を呼び掛けました。生徒らは「安全運転をお願いします。」と、大きな声で運転手に声を掛け、飲酒運転防止やシートベルト着用を訴えるチラシやハンカチなどを手渡しました。参加した西尾奈洋さん（北部中2年）は、「このような活動を通して、皆が交通安全を意識してくれるとうれしいです。」との感想を語ってくれました。勝山市では、今年に入り交通事故で3人ものかたが亡くなっており、特に高齢者の事故が増加している傾向にあります。運転手のかたはもとより、歩行者の皆さんも十分気を付けてください。

シルバーフェスタを 勝山で初めて開催

社団法人勝山市シルバー人材センターでは、活動の普及啓発と会員募集を目的に、9月30日に同センターで『第1回勝山市シルバーフェスタ』を開催しました。開会式では、斎藤慶四郎センター理事長が「シルバー人材センターは日本で一番成功した事業です。」とその活動を高く評価し、来賓の山岸市長は「このセンターは団塊の世代の退職者の受け皿となり、交流が始まります。」とこれからの活動に期待をかけられました。会場では、入り口の駐車場で新鮮野菜や果物、手芸品などの販売コーナーが設けられ、あいにくの雨模様の中訪れた多くの来場者が次から次と買い求め、用意した品は短時間で底をつく盛況となりました。そこで行われたふるまい餅つきでも、来場者のかたはつきたての餅に大根おろしをかけ、おいしそうに食していました。またセンター内では、血圧測定による健康相談などの相談コーナーが設けられた他、同センターの活動紹介写真、会員による趣味の作品などの展示コーナーでは来場者がじっくりと作品の出来栄を楽しんでいました。さらに今年4月からスタートしたワークプラザでは、刃物研ぎや襪、障子張りの実演コーナーが設けられ、来場者は会員の实演に見入っていました。



刃物研ぎの実演でその出来栄を確認する来場者のかたがた



明るく元気に交通安全を訴える北部中生徒

すてきに人生

相談者と行政とのパイプ役が私たちの使命

深谷 久枝さん(70) 元町一
仲谷 則雄さん(58) 北郷町伊知地

行政に関する苦情や要望・意見を聴いて問題解決の促進を図る深谷久枝さんと仲谷則雄さんは、市民の皆さんと行政のパイプ役として総務大臣から委嘱された行政相談委員です。困り事や悩み事などを、毎月第3水曜日に教育会館で行う定例相談以外に、会合や電話、手紙などで気軽に無料相談ができます。

平成4年に男性一人の相談体制を改め女性の相談にも配慮するため、深谷さんに白羽の矢が当たり男女各一名となりました。仲谷さんは3年前にパトロンを受け元市職員の知識経験を活かして活動にあたっておられます。

「どんな小さな苦情でも相談者の立場にたつて対応し、一緒に考え優しくフォローしてさしあげるのが私の使命。」と深谷さん。「しかし、時にはパイプ役にもどかしさを感じ



笑顔で対応される深谷さんと仲谷さん

ることもありませぬ。」と行政に通じている仲谷さん。相談内容も複雑になってきている昨今ですが、「行政と相談者の谷間を埋めるのが私達の役割。公平中立の建て前のなかにも思いやりの心を失わず地道に活動していきたい。」とお二人は口を揃えて話されました。

出会いふれあい

仲間 GROUP

支えよう、地域で子育て

「明るい社会づくりを目指して」

「更生保護女性会」は、地域で女性の立場から犯罪や非行のない明るい社会づくりを目指す更生保護女性ボランティアの団体。勝山地区を担当されるのが、「勝山地区更生保護女性会（酒井ゆき系会長）」で現在会員は90名います。更生保護とは、犯罪などの過ちを繰り返さないよう社会で必要な指導や支援により再犯を防ぐ制度です。このために、同女性会では保護司会のかたや志を同じくする青年ボランティアBBS会とも連携を図りながら日ごろの活動に励んでいます。

また、同女性会では子育て支援地域活動として幼児期の育成が大事と捉え、子育て支援センターや保育園、児童センターに出向き、園内外の活動のお手伝いをしています。子育て支援センターでは、「毎月の子育てひろば」とびだせカンガルーの野外活動で安全対策に人手が必要なきなど、とても助かります。」とその支援活動を高く評価しています。



勝山地区更生保護女性会の理事の皆さん